

争論 キャッシュレス社会考

学生の食を支えるために —大学生協におけるキャッシュレス化の現在—

関口 晴美

生活協同組合連合会大学生協事業連合

聞き手：加賀美太記（就実大学准教授）



【加賀美】 生協の事業に関わる、最近のホット 이슈の1つが現金を使わない決済手段、いわゆるキャッシュレス決済（以下、キャッシュレス）への対応だと思います。

様々な生協のなかでも、このキャッシュレスに、先駆的に取り組んできたのが大学生協です。今回は、そのキャッシュレス化の実践についてお伺いしたいと思います。始めに、昨年に発足した「大学生協事業連合」と全国の大学生協の概況をお伺いできますか。

【関口】 全国連合会である全国大学生生活協同組合連合会には約 240 の大学生協などが加盟しています。そのなかで、私は大学生協事業連合という組織に属しています。

事業連合は各大学生協が連携して共同仕入れを行うなど、各大学生協の事業を支える役割を担う組織で、その点では地域生協の事業連合と変わりはありません。

2019 年現在、大学生協の事業連合は全国に 2 つだけとなりました。私どもの大学生協事業連合と、大学生協中国・四国事業連合の 2 つです。昨年 11 月 1 日に 6 つの事業連合（北海道・東北・東京・東海・関西北陸・九州）が結集して発足したのが、大学生協事業連合です。もともとは地域エリアごとに事業連合が 10 あったのですが、徐々に結集が進んで、現在は 2 つになっているという状況です。

私ども大学生協事業連合の事業についていえば、堅調に推移しています。特に伸びているのはフードサービス、つまり食堂です。それ以外の事業として、新学期の重点活動と言われる組合の加入活動や共済加入、教科書購入、パソコン購入、住まいに関する支援、そして就職に関わる支援や学生の成長に関わる支援があります。これは「公務員講座」や「英語講座」などの講座関係です。以上のフードサービス、新学期のとりくみ、講座関係が事業の大きな柱です。

また、とくに大きな大学生協、たとえば東大生協や京大生協などでは、先生方の研究に関わる消耗品関係などの利用も堅調です。それをいれると 4 本柱になります。

【加賀美】 組合員数はどうでしょうか。

【関口】 大きな変動はありません。私学の学生数が少し減少しているため、絶対数は少なくなっていますが、加入率という点ではあまり変わっていません。一部私学で組織率の落ちてきているところもありますが、全体としては堅調に推移しております。

キャッシュレス化の きっかけとなったミールカード

【加賀美】 本題に入りますが、現在の大学生協のキャッシュレス化は、フードサービス（以下、生協食堂）における代金支払いの電子化が中心になるかと思います。

実際、私は 2000 年に立命館大学に入学したのですが、当時からテレホンカードのような磁気式プリペイドカードが導入されていて、1000 円や 5000 円といった単位で販売されていました。現在では IC を組み込んだ組合員証に入金（チャージ）するプリペイド方式の電子マネーが食堂などで利用できるようになっています。

こういったシステムは、どういった経緯で導入されたのでしょうか。

【関口】 お話の通り、大学生協のキャッシュレス化は生協食堂から本格的に始まりました。レジの支払いで現金を使わないという意味では、今お話に出たテレホンカードのような接触型の磁気式カードが始まりです。当時は今のような、端末にタッチするだけの非接触型のカードがまだまだ高価だったため、比較的安価だった磁気式カードから始まったわけです。

この磁気式のプリペイドカードですが、学生に食費として 10 万円を渡したら、食費を削って何か別のことに使っちゃうのでは…、という不安が保護者にはありますよね。だから、このカードは食堂、あるいは生協でしか使えませんよ、ということを打ち出して納得していただいていたんです。

その後、IC カードの価格低下、あるいは FeliCa のような非接触型技術の発展や普及もあって、現在では多くの生協で電子マネーが導入されています。呼び方は大学によって違いますが、購入店舗でも

電子マネーを使えるように徐々に広がってきています。ただ利用構成比でみると利用頻度の高いのは圧倒的に生協食堂ですね。

一連のキャッシュレスに先駆的に取り組んでこられたのは、中国・四国事業連合であり、その後九州事業連合はじめ各地に広がっていきました。

磁気式カードのような例もありますが、大学生協におけるキャッシュレス化の本格的なきっかけは、全国各地に広がった「ミールカード」というシステムです。これは一年間の食堂利用代として一定額を先払いしてもらい、一日当たりの上限額まで食堂で利用できる仕組みです。多くの大学生協で組合員証が IC カードになっていますので、ミールカードに申し込んだ組合員は、組合員証を食堂のレジでタッチするだけで、生協食堂の支払いができるわけです。このミールカードの普及が、大学生協でキャッシュレス化が進んだ大きな理由です。

【加賀美】 ミールカードはどのような経緯で始まったのでしょうか。

【関口】 ミールカードが始まったのは 2002 年です。背景には、学生の保護者からの生協食堂への期待がありました。

たとえば当時、水産大学生協（現在の東京海洋大学）で、生協食堂を訪れた学生の母親が、「生協なら子供の食事を全て任せられる」といって、1 年分の食券をまとめて購入されたことがありました。食券をまとめて購入すると割引がありましたので、親御さんたちはまとめ買いをするんですね。こうしたことは他の大学でもあったのだらうと思います。

また、アメリカの大学の取り組みを学んだことも影響しています。アメリカの大学を調査してみると、学生寮と食堂を併設し

た「ドミトリー」形式がとられていました。そこでは、一年分の「ミールプラン」を設けて、料金を先払い制にしてキャッシュレスで運営していました。

こうした保護者の期待とアメリカの事例の学びから、2002年9月に中国・四国事業連合の食堂事業部が、学生の食生活を改善し、食文化を創造するフードシステムをつくるという政策を打ち出しました。そのときに初めて「ミールカード」が提案されたのです。学生の保護者、とくにお母様たちが一人暮らしをする子供の食生活を心配しており、生協の食堂だったらちゃんと食事を取るのではないかという思いを受けてのスタートだったと思います。

こうした経過がありますので、事業的なメリットももちろんあるわけですが、それよりも本質的な部分である「学生にちゃんと食べてもらって勉強してもらおう」という考え方を大切にしながら、ミールカードは進めています。学生が実際に食べている食事の内容をリサーチして、大学生協のミールカードを使って生協食堂で食べると、こういう値段でこういうものが朝昼晩食べられますよ、というメッセージを打ち出しています。若い学生には栄養が必要ですし、学生時代は健康な体を作る最後のチャンスともいえます。だから、大学生協は当時から食育の活動として「ミールカード」を打ち出していました。こうしたことに最も敏感に反応するのが母親で、とても高く評価してもらっています。

2002年に中国・四国事業連合で導入されて以降、ミールカードは急激に全国に広がりました。その過程で、1日の上限を1000円、あるいは2000円にするといったように、使いやすく、かつ積極的に使ってもらうための工夫を模索してきました。

さらに、今では食事の履歴も出すように

しています。何時に何を食べたかの決済データから食べた単品名、栄養価が記録できます。この履歴を、保護者も閲覧できるようになっていますので、子どもが大学にちゃんと通っているかというチェックにもなります。もっとも、今は個人情報保護法がありますので、データの取扱いには十分な注意が必要ですが。

その他に、この履歴は食生活相談にも活用できます。それまでは学生に日常の食事内容を書いてもらっていたのですが、履歴を持ってくると、それらがすぐにわかります。カロリー計算なども全部出てきますので、栄養相談や食生活改善ツールにも使えます。栄養士さんのアドバイスにも使える履歴が残るというのは、食育の面からとても効果的でした。

“Suica”と連携した学食パス

【加賀美】 ミールカードは親御さんの支持を得て普及していったのですね。

電子マネーのシステムは、各大学で共通のものを採用しているのですか。

【関口】 いえ、東京だけは別のシステムです。2012年から「学食パス」というものを使っています。

学食パスはJR東日本のSuicaを使っており、ミールカードのような大学生協独自のカードではなく、また定期券型ではありません。

東京以外では、大学生協が独自のカードを作っていますが、東京ではSuicaの電子マネー機能の一部を解放してもらって、大学生協のデータを保存する機能を持たせています。

【加賀美】つまり、Suica という 1 枚のカードに、Suica 電子マネーと生協電子マネーの 2 つの電子マネーの機能が組み込まれているということでしょうか。

【関口】そうなりますね。なので、生協で学食パスに入金すると、その金額分は生協でしか利用できません。他のお店などで使うためには、Suica 電子マネーに入金しなければなりません。

なぜ Suica を利用することにしたのか、という理由には、東京独自の事情があります。というのも 2012 年当時、Suica が相当に普及して、関東圏ではスタンダードになりつつあったんです。東京近郊の学生の多数は Suica カードを持っていた。そこに新たに生協で IC カードを作ると、学生に電子マネー用のカードを何枚も持たせることになってしまう。これはどうなんだろう、という議論を学生たちとおこなったところ、それはあんまり良くないのではないか、という意見が出されました。そのため、Suica に生協の電子マネーの機能をのせてもらい、カードの枚数を増やさずに生協の電子マネーを利用できるようにしようと考えたわけです。

ただし、学食パスも導入の目的は食生活の改善ということであり、その点で他と違いはありません。学生の食費がどんどん減っていること、しっかりと食べたくても食べられない学生もいることも調査でわかっていましたので、とにかくちゃんと食べてもらおうということで東京も踏み出したわけです。ミールカードも学食パスも、子供に食事をちゃんと取ってほしいという親御さんのニーズと生協のニーズが一致したという形で出来上がったものだと思います。それが今予想以上に大きく広がっています。

【加賀美】確かに学生にとっては、カードが少ない方がありがたいですね。ただ、独自の電子マネー機能という点、Suica を運営する JR 東日本側との調整でご苦労されたのではないのでしょうか。

【関口】そうですね。当時 Suica は他に解放する事例は少なく使用料の決め方などでは苦労しました。

ただ、当時は JR 東日本さんと別の事業において提携していましたし、学生が使うということ、また都内首都圏の多くの大学が参加しているということで理解をいただきました。

電子マネーがもたらした事業への効果

【加賀美】ミールカードや学食パスといった電子マネーの導入の経営的な効果はいかがでしょうか。

【関口】一番効果が出たのは、レジの精算スピードの改善です。飛躍的に早くなりました。

大学の生協食堂は、昼休みの短い時間に学生が集中します。座席数の限界もありますが、一番混雑するのはレジです。早い担当者でも、1 人当たり 20 秒くらいかかります。そこをスムーズに流さないとどんどん列が長くなる。学生の食堂に対する不満のひとつはこの混雑なんです。ところが、電子マネーだと 1 人 10 秒くらいで終わります。現金とお釣りのやり取りがないのでレジのスピードが早くなり、学生の不満も減少し客数も上がってきました。

レジの混雑が解消され、出食数も増え、学生の待ち時間もなくなる、レジ締めの方

業時間も減るといった大きな経営効果が生まれたと思います。

【加賀美】 生協電子マネーやミールカード、学食パスは前払いになりますが、キャッシュフローの改善にも貢献するんでしょうね。

【関口】 それはものすごい貢献ですよ。入学時に一気に保護者が入金されるので、キャッシュフローが良くなりますね。もちろん食堂事業は日銭なので、日々お金は入るものなのですが、ミールカードの何がすごいかという一気に入金があるということです。

また、銀行への入金やつり銭の準備といったバック業務も激減します。たとえば、立命館などのキャッシュレス化が進んだ大学では、大食堂にレジが10台あるとしたら、現金レジは2台くらいです。8台分のバック業務がなくなるわけですから、これはとてつもない改善になります。

ただ、そこにたどり着くまでは大変です。電子マネー比率が少なかったりしますと効果は少ないので。ただ、徐々に伸びてくると大きく業務効率が変わります。

【加賀美】 電子マネーが普及するにしたがって、事業的なメリットも増えるわけですね。

【関口】 その通りです。しかし、やはり結構な初期投資がかかります。システムへの投資、レジの買い替えなど、規模の小さな生協だとコストが重くなかなか進みません。たとえば、関西北陸事業連合では48生協のうち数十の生協で、そうした理由から電子マネーの導入が遅れていました。

しかし2014年からは、事業連合の資産として計上して、レジを各生協に貸し出す

という方式をとるようになったことから、規模の小さな生協でも導入が進みました。

【加賀美】 反対にデメリットはありますか。

【関口】 生協的には全くないですね。以前と比べると学生さんも電子マネーが当たり前になっています。むしろ電子マネーが無いほうが違和感を持たれると思います。

もしあるとしたら、これはメリットでもありデメリットでもあるのですが、ポイントの還元率の問題です。ミールカードは入金や使用時にポイントを付与します。他社も「ポイント還元率何パーセント!」というキャンペーンを張られますので、生協も対応など求められます。これが財政的には結構な負担になるのです。そのため、それぞれの大学生協の経営体力によって、ポイント還元率などは差が出てきます。

また、事業連合に対しても、商品価格を値下げするのではなく、価格はそのままでポイントを何倍にという商談をしていくことが、会員から求められています。そこがカードを使うメリットでもあり、経営的な面ではデメリットとも言えます。

このポイント周りは難しい部分ですが、それでも大学生協にとってのミールカードは事業的に大きくプラスに働いた、ものすごいイノベーションであり、仕組みだったと思いますね。

電子マネーから見える、 生協という仕組みについての 学生の理解の課題

【加賀美】 先程、少し話に出ましたが最近の学生にとっては電子マネーが当たり前になっています。

導入や普及の過程で学生の受け止めなどで、何か印象に残ったことはありますか。

【関口】 当たり前になったからこそだと思いますが、生協電子マネーはなぜ生協だけでしか使えないのか、という意見は出てきます。

いまでは、Suica にしろ WAON にしろ、どこでも使える電子マネーになっていますから。昔は読み取り機によって制限がかけられていて、そのチェーンでしか使えない閉じられた世界だったのですが、今はマルチになっています。そうした情勢で、なぜ生協のカードは他で使えないのか、他の商品を買えないのか、という意見は出てきていますね。たとえば、生協ではセブンイレブンの nanaco で決済できないのか、逆に生協の電子マネーをセブンイレブンで使えないのか、といった声が、学内にセブンイレブンなどのコンビニが入っている大学では、聞こえてきます。

【加賀美】 当たり前になったが故に、違いが分かりにくくなっているのかもしれないね。

他業者との関係では、先日、早稲田大学生協がペイペイを導入したことが話題になりました。こうした外部の決済システムなどを利用するにあたっての苦労や課題などはあるのでしょうか。

【関口】 まず、はっきり言えるのは東京など大都市とそれ以外の地域では事情が異なるということです。東京では生協の独自カードによる囲い込みを取っていません。そうした背景もありますので、早稲田大学生協がペイペイを導入したのは、やはり留学生が多くなってきたこと、それへの対応を大学から求められたのが原因だと思います。

す。

生協は生協でシステムを持っていますので、おそらく積極的に導入したわけではないと思いますが、大学生協である以上、大学の要望には大学生協としてもしっかりと対応する必要があるというのが基本的なスタンスですね。

【加賀美】 事業連合として、他業者のシステムを導入しなければならないということではなくて、個々の大学の事情に応じてということですね。

【関口】 そういうことです。その大学とその大学生協の事情に応じて、システムが開かれていくこともあります。今は系統的に難しいと言うことではありませんので個別対応という方針ですね。

実際、少し古い話にはなりますが、京都工芸繊維大学の 1 年生が京都府立大学のキャンパスで授業を受けるということがありました。どちらも電子マネーを積極的に導入していたこともあって、学生から京都工芸繊維大学のミールカードはなぜ府立大で使えないのか、というクレームなどいただきました。

システム的にはやろうと思えばできるのですが、会計処理などシステムとは別の次元で多くの問題が出てくるので、実現するにはハードルがあります。

ただ、大学の交流はこれからもありますので、似たような問題はこれからも出てくると思います。

【加賀美】 実は、私も学生時代は生協の仕組みをきちんと理解していなかったのも、なんで立命館のカードは同志社で使えないんだと思っていました (笑)。

【関口】そうですね。大学生協はそれぞれ別法人であることを学生は理解できないでしょう。nanacoをローソンで使えないのと同じことなんだという点は、理解してもらう必要がありますね。

大学生協とクレジットカード

【加賀美】キャッシュレスというと、最近では電子マネーやQRコード決済が話題ですが、もともとはクレジットカードこそがキャッシュレスの本丸だった、ともいわれます。

大学生協でもTuoカードというブランドでクレジットカードを展開されていましたが、こちらについても少し経緯や現状をお伺いできますか。

【関口】きっかけは社会的にクレジットカードが普及し始めたなかで、大学生もクレジットカードを持ち始めたことです。普及にともなって、学生のキャッシング等のトラブルが聞かれるようになり、そもそも学生がクレジットカードを持つのはどうなんだろう、という話題も出始めていました。そうしたときに、大学生協独自のクレジットカードはできないのか、といった要望が結構あったんですね。

一方、生協でも海外旅行に行く学生にはクレジットカードを勧めていたという事情があって、三井住友カードやJCBと提携を始めたという経過があります。

学生が初めて持つクレジットカードとしてトレーニングカードという位置づけで、限度額を低く抑えました。また、国内キャッシングができないようにしました。その他にも、顔写真もつけるなど、学生が初めてクレジットカードを持つというトレーニン

グカードという特徴を強く持たせています。このように、クレジットカードを本格的に使い始める前の学生向けのトレーニング用として始めたということです。

【加賀美】ちなみに発行枚数はどの程度だったのでしょうか

【関口】8万枚ぐらいだったと思います。もともとカード会社も含めてカードを持ってもらうというのが先決だということで、学生1枚当たりの申し込みに対するインセンティブもありましたが、カード会社の政策も徐々に変わりました。カード発行にはそれなりのコストがかかるので、カード枚数を増やす政策よりも、カードの稼働率を高めていく政策に変わってきました。

カード会社の事情も分かるのですが、生協内部では、実際にクレジットカードを使う場面で、たとえば海外旅行など必要性のある人に作ってもらい使ってもらうということになり、積極的にカードを勧めることはしなくなっています。また一方で生協の方針が、電子マネーへとシフトしたということもあります。

あるいは、大学生になって初めてクレジットカードを持つ・使うのではなく、高校生時代から少しずつ利用している人もいた時代です。トレーニングカードは、今ではその役割を終えつつあるのかもしれませんが。

消費者としての大学生の学びと大学生協

【加賀美】最後になりますが、大学生という社会に出る直前の若者を組合員とする大学生協が、キャッシュレスを通じて消費者

教育的な役割を果たすことや、そうした可能性はあるでしょうか。お考えを教えてくださいましたらと思います。

【関口】一定の役割はあると思います。新学期には、先輩学生が後輩の新入学生にくらしの注意点(ゴミの出し方など)や大学での学びの方法など伝えていくということは各大学生協で行われています。それは生協の学生委員会など組合員活動ですね。この間は、全国大学生協連が発行している「ダメされないチカラ養成 HandBook」という消費者教育のパンフレット(悪徳商法の本質や、法律を使って自分を守る方法など紹介しています)を活用したセミナーなど行っている大学生協もあります。

大学で本格的に消費者として自立する学生教育は、いろいろな形で取り組まれています。

ただ、ミールカードに代表される大学生協のキャッシュレスは、食事をちゃんと食べてほしいという親御さんからの希望を取り入れた大学生協の理念があります。まずはその点をしっかり柱に据えて取り組んでいくことが、何よりも大切なんだろうと思います。

【加賀美】大学生協のキャッシュレスのスタートは便利さからではなく、ちゃんと食べてもらうというところから始まったという点は、とても大事なことだと思います。今のキャッシュレス化は、とにかく便利に使えばいいじゃないか、という流れのもとに進んでいるように感じますが、そうした理念がある以上他と同じような電子マネーの形にはならないように思います。今回は大学生協らしさ、という点についても学ばせていただいたように思います。本日はありがとうございました。

生協食堂年間利用定期券 ミールシステムのご案内

健康な食生活を支える「食育」ミールシステム

ミールシステムはいわば「定期券」のように現金がなくても食事ができるサービスです。IC学生証に利用機能が追加されます。

ミールシステムとは?

ミールシステムの
メリット

- 健康な食生活を
支えるシステム
- 毎日の食費を
確保
- 学生個人の
食の自立を応援

▶ 事前申込制の「生協食堂 年間利用定期券」
事前申し込みの年間定期券で食費を確保、経済的に活用いただけます。

▶ 使えるのは「食堂・カフェのメニュー」
生協手作り弁当、生協焼きたてパン
毎日1日の利用回数無制限で自由に利用できます。

▶ ライフスタイルに合わせてプランが選べます。
生協食堂は、朝食・昼食・夜食メニューが揃っているため、自分のスタイルに合わせて食事が可能です。毎日朝晩がおり、サブドックなど滞在時間の多い1年生にミールシステムは人気です。



2019年度 ミールプラン

ご利用期間 ▶ 2019年4月8日(月)～2020年2月29日(土)

※ただし、長期滞学等による長期滞学期間が変更になりますので、ホームページから最新の長期滞学期間をご確認ください。

ご利用年度は「大学生協マイページ」(無料)にてご確認ください。

購入金額		こんな人にオススメ	
1,100円 プラン		● 自然に自律がない人 ● 規則正しい食生活を身につけたい人 ● 朝活やサークルを頑張りたい人	
平日 1,100円	土曜日 550円	8:00～9:30は 朝活メニューを 提供しています	8:00 9:30 11:00 22:00 平日最大 181,100円利用可能 利用日数: 平日213日/土曜日42日
購入金額		こんな人にオススメ	
550円 プラン		● 自然にもチャレンジしたい人 ● 規則正しい食生活を身につけたい人 ● 食費を確保しておきたい人	
平日 550円	土曜日 550円	8:00～9:30は 朝活メニューを 提供しています	8:00 9:30 11:00 22:00 平日最大 18550円利用可能 利用日数: 平日213日/土曜日42日
購入金額		こんな人にオススメ	
朝ミール プラン		● 朝がとにかく苦手な人 ● 規則正しい食生活を身につけたい人	
平日 280円	1,100円プラン、550円プランは セットでの利用をオススメします	※1,100円プラン、550円プランは セットでの利用をオススメします ※1,100円プラン、550円プランは セットでの利用をオススメします	※1,100円プラン、550円プランは セットでの利用をオススメします ※1,100円プラン、550円プランは セットでの利用をオススメします

平日および土曜日で生協店舗が営業している日にご利用いただけます。
(日祝、お盆休み、年末年始休業期間および3月除く)

※レジで購入できるミールシステム対応商品は限られています。

大学生協のミールカードを使った
ミールプランの案内
(上: 同志社大学生生活協同組合HPより
下: 京都大学生協同組合HPより)